

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019 年 4 月 23 日 提出

1. 研究課題名	
「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究 (英文標記: Study on Construction of "Old photograph GIS database on Kamo River" and Transition Analysis of River Environment)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
飯塚 隆藤(いづか たかふさ)	愛知大学地域政策学部・准教授
3. 研究分担者 (合計: 4 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
矢野桂司(やのけいじ)	立命館大学文学部・教授
谷端 郷(たにばたごお)	立命館大学衣笠総合研究機構・専門研究員
大邑潤三(おおむらじゅんぞう)	京都大学防災研究所地震予知研究センター・特定研究員
佐藤弘隆(さとうひろたか)	立命館大学大学院文学研究科・院生

4. 研究課題の概要
<p>本研究課題は、京都・鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブを進め、鴨川における河川環境の変遷を読み解くためのデータ基盤「鴨川古写真 GIS データベース」を構築することである。これまで、河川環境を対象とした古写真の系統的な収集および分析手法は未確立であった。鴨川においても景観の変遷を古写真から明らかにする研究は少ない。そこで、近現代の京都に関わる古写真のデジタル・アーカイブを進めている立命館大学アート・リサーチセンターの古写真データベースを活用して、鴨川が写る古写真の撮影地点を同定して GIS 化することで、断片的に収集された古写真が統合され、河川環境の変遷を系統的に分析することができるようになる。加えて、関連機関と連携して鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブも充実させる。</p>
5. 研究成果の概要
<p>本研究の成果として、以下の 4 点にまとめられる。</p> <p>【1. プラットフォームの構築】 画像データを共有・分析するプラットフォームとしてデータベースのポータルサイト「鴨川古写真 GIS データベース」を、立命館大学アート・リサーチセンターのテクニカルサポートボードに依頼して構築した。そして、同センターの古写真デジタルアーカイブプロジェクトによって作成された古写真データベースから、鴨川が写る写真を抽出し、同データベースに収録した。さらに、これらの写真の撮影地点を同定して GIS データ化した。その結果、水辺写真として分類できたものはおよそ 1200 枚、そのうち約 800 枚が位置特定できた。</p> <p>【2. 写真データベースの充実】</p>

立命館大学歴史都市防災研究所蔵の歴史災害関係資料とくに写真帳類(『水害写真:昭和十年六月二十九日』、『水禍と京都』、『暴風水害写真』など)をデジタル撮影し、写真データベースにも取り込んだ。また、京都府京都学・歴史館が「京の記憶のアーカイブ」において公開している写真資料もデータベースに取り込んだ(CCBYで提供されているものおよそ3,400枚)。

【3. 鴨川の景観変化の分析】

研究メンバーが集まる研究会を1か月に1回の頻度で合計7回実施した。前半は古写真分析にあたっての話題提供や意見交換を行った。後半は京都市三大事業の1つである第二琵琶湖疏水事業に関する写真を収録した京都市歴史資料館所蔵『京都市臨時事業部写真帖』が、近代鴨川の景観変化を読み解く際の重要な資料であることを見出し、デジタル・アーカイブ化に向けた調整と写真の解説を行った。

【4. データベースの利活用】

1935(昭和10)年京都大水害を題材に、アーカイブした『水害写真:昭和十年六月二十九日』と、これまでに作成した被害に関するGISデータとを組み合わせ、地図上に集約しストーリー仕立てで紹介する「ストーリーマップ」を用いたWebGISアプリケーションを試作した。これらの成果の一部を第14回GISコミュニティフォーラム(2018年5月)に出展するとともに、教材化の経緯をじんもんこん2018で報告した(研究業績⑨)。